

宇都宮市立富士見小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【家庭での学習】について

○学ぶ意欲について、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」について、肯定割合が78.1%と、県の平均を8.7ポイント上回った。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」について、肯定割合が81.9%と、県の平均を8.1ポイント上回った。普段から進んで学習に取り組む児童が多いので、これからも学年に応じた宿題の出し方を工夫するなどの指導を継続していきたい。

○学校での様子について、「本やインターネットなどを活用して、勉強に関する情報を得ている」について、肯定割合が58.1%と、県の平均より7.9ポイント上回った。また、「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」について、肯定割合が60.0%、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」について、肯定割合が87.6%と、いずれも県の平均を上回った。インターネットを活用する場が増え、児童が調べたことをもとに、自分の考えをまとめられるようになったと考えられる。一人一台端末の使い方に注意しながら、これからも積極的に活用していきたい。

【学校での様子】について

○教科の学習について、「次の教科の授業の内容はよく分かりますか」について、肯定割合が国語で95.2%、算数で93.3%、理科95.2%と、いずれの教科も県の平均を上回った。「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」について、肯定割合が86.6%と、県の平均を10.0ポイント上回った。また、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」について、肯定割合が88.6%と、県の平均を6.4ポイント上回った。このことから、問いに対する答えの根拠を見つける習慣が身に付いてきていると考えられるので、自分の考えをノートに書いたり、相手に伝えたりする活動を継続していきたい。

【社会のこと】について

●「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」について、肯定割合が66.7%で、県の平均を1.1ポイント下回った。また、「新聞を読んでいる」について、「ほとんど、または全く読まない」と回答した児童が73.3%で、県の平均を1.6ポイント上回った。地域と交流する機会も減っているため、自分の住む地域への関心がやや低い傾向にある。ICTを活用しながら、地域や社会で起こっている出来事に興味をもてるきっかけを作る取り組みを実施していきたい。